

無題

エスカレーターに導かれる
昇ってゆく
直方体でできた街

私が流す涙には理由がない

抑圧の息苦しさでもなく
生の営みでもなく
足が生えているからでもなく
午後4時半だからでもなく

貴女が微笑しているからでもなく
木々がざわめいているからでもなく
抽象的なイメージが近づくからでもなく

私は爪を噛む

歪曲し、崩壊する
空間そのものに存在する権力
我々を締め上げるべく準備された権力

羽虫どもが乱舞する
その中で時折フラッシュする白光
新たな進化の種が蒔かれたのだ

滅びの時が来たのだ

もう一度下り
もう一度エスカレーターに乗る

さらにもう一度、さらにもう一度

(2011.5.28)